

# 教員養成系大学の学生の保健科教育における 指導力を高めるための教育プログラムの効果と課題

—自己学習との関連に着目して—

高野雅子（信州大学）

## I. 研究の目的

本研究では、保健科教育の指導力の向上を目的とした教育プログラムを開発、実践し、効果と課題を明らかにすること、さらに、自己学習の多寡が保健科教育の指導力の向上に及ぼす影響について明らかにすることを目的とした。

## III. 研究の方法

本研究では、2016年9月から11月に、地方国立大学の教育学部において保健体育の教員免許取得を目指す学生63名を対象とした。研究では、保健科教育に関する事前アンケート（属性、保健科教育の経験、保健科教育の特質、保健科教育の指導に対する自信・関心・認識・意欲、教材研究に対する自己評価から構成）、及び保健科教育の指導法の知識テスト（全75問）を実施した。得られたデータもとに、教育プログラムを開発・実施した。その後、プログラムの実施が、学生の保健科教育の指導力の向上に及ぼす効果を評価した。保健科教育の指導力は、①保健科教育の目的や必要性の理解、②子どもの健康に関する知識、③具体的指導方法に関する質問についての自己評価の合計得点とした（以下、指導力の合計得点）。また、自己学習は、a) 指導案の提出回数（全3回）、b) リフレクションの記入回数（全6回）、c) 授業ノートの提出回数（全2回）、a)～c)の提出回数や記入回数を得点化した合計得点（11点満点）により評価した。さらに、自己学習の合計得点で、10点以上を自己学習高群、9点以下を自己学習低群とした。プログラムの実施の効果は、Wilcoxonの符号付順位和検定を用いて評価した。

## IV. 結果と考察

### 1. 教育プログラムの開発と実施の効果

事前調査のデータの分析では、指導力の合計得点と、保健科教育に対する自信に関する質問項目の合計得点、教材研究に関する自己評価の合計得点について有

意な正の相関が認められた。また、自信の合計と教材研究の合計においても有意な正の相関が認められた。そこで、模擬授業形式の授業研究に加えて、自己学習を促すために、①個人での指導案の作成と提出、②模擬授業後のWeb上での個人リフレクションの記入、③自己学習を記録するためのノートの作成と提出を含んだ教育プログラムを開発した（以下、この3つを自己学習とする）。プログラムでは、指導案の相互評価、模擬授業の実施、模擬授業のリフレクションを1サイクルとし、計3サイクル実施した。その結果、保健科教育の指導力合計得点及び指導の自信合計得点において有意な向上が認められた。さらに、保健科教育に対する関心に関する項目、認識に関する項目、意欲に関する項目、指導法の知識テストの合計得点においても有意な向上が認められた。

### 2. 自己学習が保健科教育の指導力に及ぼした影響

プログラムの実施の結果、自己学習の高群と低群の双方で、指導力合計得点の有意な向上が認められたが、両群の間には有意な差は認められなかった。また、自信の合計得点及び知識テストの合計得点においても指導力合計得点と同様の傾向が認められた。これらのことから、自己学習を行うことが、保健科教育の指導力を向上させるだけでなく、指導の自信や知識の向上にも寄与する可能性が示唆された。

## V. 結論

模擬授業形式の教材研究に加え、自己学習を促す教育プログラムを実施した結果、保健科教育の指導力は有意に向上した。また、自己学習の活動は、保健科教育の指導力のみならず、指導の自信や知識の向上に対しても影響を及ぼす可能性が示唆された。今後は、計画された指導案の内容やリフレクションの記述内容等を質的に分析することで、指導力の向上との関連を質的側面から明らかにする必要がある。